

## 「生き生きとコミュニケーションを図る児童の育成」

～楽しい外国語活動を取り入れた授業実践を通して～

### I 研究の内容

#### 1 研究の目標

外国語活動を通して、外国語や外国文化に慣れ親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、国際社会でたくましく生きる力を養う。

#### 2 研究の具体的内容と方法

##### (1) 研究の内容

- ア 塩山地区の外国語活動共通教材を活用した授業実践
- イ コミュニケーション能力の素地に関する評価の観点及び評価方法
- ウ 児童の興味関心等の学習状況の変容に関する定量的な把握及びアンケート調査
- エ 指導力向上のための理論研究と研修
- オ ALTや外部講師の効果的な活用
- カ 他の小学校中学校との連携

##### (2) 研究方法

- ア 授業研究（公開授業＝5年・6年）
- イ 検証資料
  - ・ 児童の意識調査（児童アンケート、感想文）
  - ・ 指導者の見取り（児童の行動観察《発言・反応等》）

#### 3 具体的実践

##### (1) 理論研究

- 「新しい学習指導要領案の改訂に関わって」
- 「英語ノートの効果的な使用法」
- 「評価規準の作成について」

講師：県教育庁義務教育課 立川 武指導主事  
          峡東教育事務所 小林俊彦指導主事

##### (2) 実態調査の実施

6月、12月 外国語活動における児童の意識調査

##### (3) 模擬授業

第2学年 授業者 佐藤多恵  
第3学年 授業者 雨宮正倫

##### (4) 公開授業

第5学年 外国語活動「世界の料理を調べよう」  
授業者 渡邊満智子 ALT エレン・ハイデンドーフ・ビアーズ  
第6学年 外国語活動「道案内をしよう」  
授業者 藤波 貴 ALT フレデリック・デ・コンダバ

## II 成果と課題

### 1 成果

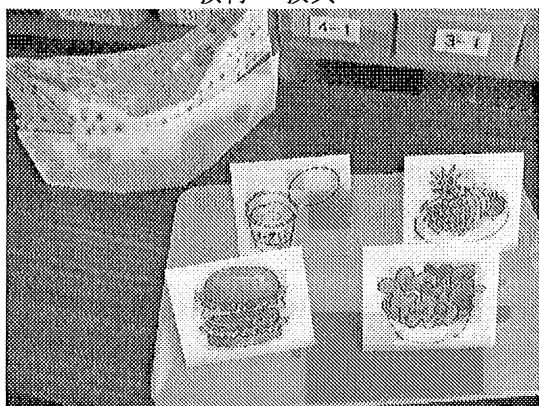
- 児童が楽しく外国語活動に取り組み、授業の活動のなかで積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿が見られた。
- 公開授業をはじめ、模擬授業、プレ授業など実践的な研究が中心であったので、検証する機会もあり、効果的な指導方法を確立できた。
- 指導主事を招いての学習会や、DVDを活用した研修などにより研究を深めることができた。
- イングリッシュルームの整備や、季節ごとの壁面掲示など環境を整えることで、児童の外国語に関する意欲を高めることができた。
- 教材、教具が充実しそれを生かした授業、また適切なゲームを取り入れた授業実践ができた。
- 授業案の検討や教材の準備、事前授業からの改善など入念な準備を行い、児童の実態を踏まえ工夫改善された授業実践ができた。
- 「めざせ5つ星」など評価規準となるところを児童と共有することで、コミュニケーション能力の素地を育てる指導と評価の一体化を図ることができた。
- 評価規準の修正により、授業のねらいと指導がより明確となった。また、自己評価カードにより、本時のふり返りと次時への意欲喚起ができた。
- アンケート項目の検討、アンケート結果の考察などが適切に行われ指導に活かされた。
- 外国語活動の計画が市のなかで共通して作成されたのは大きな成果であった。公開授業・研究会に市内小中学校より多数参加していただき、公開以降の授業に活かすことができた。
- 新しい学習指導要領にもとづいた外国語活動の年間指導計画の作成にあたり、改訂の趣旨やポイントを学習したことで、完全実施に向け体制を整えることができた。

### 2 課題

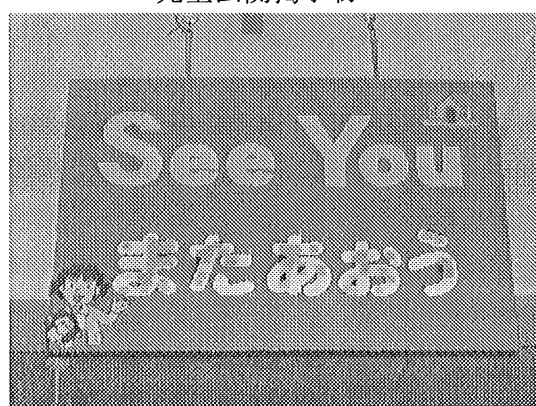
- 評価の観点や方法について研究を進め、他者評価、相互評価も検証していけるとよい。
- 授業づくりの課程で、より効果的な活動のために各ブロックの意見交換を取り入れるとよい。
- 授業を中心に、クラスルームイングリッシュ等具体的な指導力を伸ばしていきたい。

## III 成果物

教材・教具



児童玄関掲示物



(研究主任 本宮 知子)